

# 全国中学校体操競技選手権大会

## 遵 守 事 項

— 2021 —

(公財) 日本中学校体育連盟

体操競技部会

## 1. 全国中学校体操競技選手権大会の遵守事項

本競技会での遵守事項を下記の通りとする。

中学校体操界の健全な発展と義務教育の大会としてふさわしいものになることを期待して、ここに遵守事項を示す。役員・指導者・選手全ての共通理解の上に、愛する体操の本質的な発展にみなで努力することを期待する。

## 記

## (1) 役員・監督・コーチ及びテクニカルアドバイザーの遵守事項

- ① 競技会の企画や運営に関し、非協力的言動におよぶことのないようにすること。
- ② 選手が好ましからぬ言動におよんだり、また好ましからぬ服装・態度および化粧などをすることを放任しないようにすること。
- ③ 自ら好ましからぬ服装・姿勢・行為などをすることのないようにすること。
- ④ 監督は監督会議、および開会式には必ず参加しなくてはならない。また、すべての受付(会場、公式等すべての練習も含む)と練習中、および競技中の引率は監督が行うこと。

## (2) 選手の遵守事項

- ① 中学生として、また、スポーツマンとして、好ましからぬ言動におよぶことのないようにすること。
- ② 体操競技で要求される要素と無関係な他の要素を誇張したり、もしくは、すり替えようとするような服装・装飾・化粧などをすることのないようにすること。  
※例：女子の髪を結ぶ場合はゴム、ピン(色の指定はない)、シュシュなどは良い。
- ③ 選手は開会式には必ず参加しなくてはならない。競技2日目であっても参加すること。代理等は認められない。なお、開会式不参加の場合は棄権とみなす。

## (3) 競技器具に関すること

- ① 使用器具に関しては、大会本部で準備したものを使用する。

## (4) 撮影の条件に関すること

- ① 競技フロアでは、撮影しないこと。  
(報道の撮影、および大会役員が記録保存のため撮影することはある。)
- ② 競技フロア(アリーナ)に面する範囲内では、フラッシュ、その他、特殊な光源を用いて撮影しないこと。
- ③ 撮影はご家庭の記念のための許可であることを理解し、撮影の場合には、必ず許可証を受け取り、見えるように携帯すること。なお撮影に関して大会事務局の指示に従うこと。
- ④ 撮影に要する電源は、バッテリー等を各自用意することとし、体育館の物は提供しない。
- ⑤ 観覧席での撮影にあたっては、観覧者の通行や観覧の妨げにならないようにすること。
- ⑥ 撮影の器具・器材の保管は、所有者各自が責任を持って行う。  
※報道関係者は、大会実行委員会が特別に許可する条件により、撮影することがある。場合によっては、競技に支障のない競技フロア内に報道用の撮影エリアを設ける場合もある。
- ⑦ 大会会場(本会場内、練習会場内など全て含む)で撮影された映像、画像を本(雑誌等)、Web上に掲載することを禁止する。(含む学校のホームページ、個人で運営しているサイト、ブログ、Facebook、Twitter、LINE等)。

\*肖像権は大会主催者と保護者にあり、肖像権を使用する場合は、両方から了解を得る必要がある。ただし、日本中体連体操競技部としては選手の肖像権、個人情報保護の観点から例外を除き認めない(例外：報道、中体連等)

## 2. マークに関すること

- (1) チームは、統一したマークを付けなければならない。
- (2) マークの大きさは自由とするが、役員・審判が見てマークであると判断できる大きさであること（推奨3cm×3cm以上）。マークをつけてない場合はND0.30（1回のみ）。
- (3) マークの色は自由とするが、競技服装の色とは明確に区別できるものとする。
- (4) マークはウエストラインより上の胸部、または袖の側方（女子）につけること。
- (5) マークは、学校名を示すものであり、企業等の宣伝となるようなデザイン等は認められない。なお、監督、選手、コーチ及びテクニカル・アドバイザーが競技フロア内で着用する服装等にも企業の宣伝（クラブ名、マーク）となるデザイン等も認められない。

## 3. 校旗・部旗等の表示について

- (1) 1校1旗とする（競技・運営に支障をきたすため。それ以外ののぼり等も認めない）。  
※個人名の旗も同様とする（団体と個人で出場の場合は合わせて1校扱いとし1旗とする）。
- (2) 旗には企業等の宣伝となるような名称やデザインが入ってはいけない。

## 4. 競技順序決定方法に関する規定

- (1) 決定は、中央連絡会議（五者会議）の時に実施する。  
（方法は競技順序決定方法に関する規定に準じて決定する。）

## 5. 競技規則・採点規則・その他の全国中学校体操競技選手権大会適用

## (1) 規定演技

男女：男女ともに規定演技は実施しない

## (2) 自由演技

男子：（公財）日本体操協会制定2017年版男子採点規則・2017年制定/2018年版  
中学校男子適用規則

女子：日本体操協会制定2017年版女子採点規則・変更規則Ⅰ・女子体操競技情報最新版

## (3) その他の適用

- ① 全国大会の女子は、変更規則Ⅰで行うがブロック大会、都道府県大会、各郡市区大会はレベルと実態に応じて、変更規則Ⅱで予選をすることができる。
- ② 跳馬の着地に着地レーンを適用する。  
色分けでエリアを表示していないマットの場合、ラインにて対応すること。その場合は5cm幅のテープで明確に線を引かなければならない。この線は踏むことは許されるが、踏み越えることは減点の対象になる。
- ③ 男女ともに跳馬において、スプリング式の踏み切り板を使用する場合、3-3-2 3-1-2 を基本とするが、中学生の年代を考慮して2-1-2を認める。  
女子の段違い平行棒、平均台の踏み切り板は、コイル式の場合は赤コイル、スプリングの場合は3-1-2（2-1-2も可）とする。外した場合、そのままにせず戻してから移動すること。
- ④ 男女とも競技前のあいさつはD1の前に整列すること。コロナ対応として、挨拶のために整列する場所は、審判と選手の間器具が入る位置を目安とする。（跳馬の助走路上スタート位置も可）。終了後のあいさつは同じ位置で最後の演技終了後に行う。審判が採点中ため立たなくても挨拶をする。
- ⑤ 男女ともローテーションの合図は、最後の演技者の得点が表示されてから移動とし、アナウンスの指示に従うこと。

- ⑥ 男女とも跳馬の競技前練習は2本の跳躍までとする。大会事務局が規定した練習時間内に終わるように協力し、準備等に時間をかけすぎないこと。
- ⑦ 男女とも0点を取るためには、挙手で演技をする意思を示し、着地の姿勢を見せた場合に認める（器具に触れるなどをしても良く、また、跳馬の助走がなくても良い）。
- ⑧ オーダーミスは、最初に間違った選手からND0.30とする。
- ⑨ 服装違反は、理由等を考慮し審判長の判断とする。
- ⑩ プロテクターが切れた場合は、規則通りの対応とし、審判長と該当種目のD1によって決定される。
- ⑪ 落下に関する減点は規則通りとする。落下後30秒を超えて演技の再開に対するNDの減点は、場合によっては伴わないこともある。その場合は審判長、および該当種目のD1によって決定される。なお、各ブロック大会、都道府県大会、郡市地区大会においては各主催の決定に従うこと。  
例：演技実施が可能なレベルのケガ、出血などの手当てに時間がかかった場合など。
- ⑫ セパレートタイプのレオタードは練習時でも認めない。なお、レオタードの詳細など、遵守事項に書かれていないことは原則、高体連の規則に準ずる。

(4) (公財) 日本体操協会制定競技規則最新版（日本中体連体操競技部遵守事項を適用）

(5) 競技方法

選手権別	方 法
団体選手権	○男子は（あん馬を除く）3種目のそれぞれ上位3名の得点合計をチーム得点とする。 ○女子は（段違い平行棒を除く）3種目のそれぞれ上位3名の得点合計をチーム得点とする。 ※3種目の自由演技のチーム得点の合計点により順位を決定する。 （各選手が4種目行えば個人総合選手権を兼ねることができる）
個人選手権	4種目の自由演技の合計得点により順位を決定する
種目別選手権	各種目の自由演技の合計得点により順位を決定する。

※予選において同点の場合には、次の①～④によって決定する（次の枠内参照）

- ①団体3種目、個人4種目の中で一番低い得点を除いた合計点が高い方を上位とする。
- ②それでも同点だった場合、残りの種目の中で一番低い得点を除き高い方が上位とする
- ③①～②でも同じ得点だった場合は、Eスコアの合計点が高い方を上位とする（それ以降、一番低いEスコアを除いた合計得点の高い方を上位とする。以下、同様の方法で行う）
- ④①～③でも同じ得点だった場合は、Dスコアの合計点が高い方を上位とする（それ以降一番低いDスコアを除いた合計得点で高い方を上位とする。以下、同様の方法で行う）
- \*団体は各種目ベスト3の得点で①～④を行う。

## (6) 成績順位及び表彰

- ① 団体（男女）：3種目（男子：ゆか、跳馬、鉄棒）（女子：跳馬、平均台、ゆか）の自由演技の合計点  
 個人（男女）：4種目（男子：ゆか、あん馬、跳馬、鉄棒）（女子：跳馬、段違い平行棒、平均台、ゆか）の自由演技の合計点

選手権別	優勝杯	楯	メダル	賞状
団体総合選手権	1位	2・3位	1位～3位	1位～6位
個人総合選手権	*	1位	1位～3位	1位～10位
種目別選手権	*	*	1位～3位	1位～6位

※同点は同順位として表彰する。

開催都道府県の事情により2・3位をトロフィーにする場合がある。

- ② 次の場合は、成績順位及び表彰の対象としない。  
 ア、選手が演技すべき種目の全部を演技しなかった場合。  
 イ、チームが、演技すべき種目の内、演技者が3名未満である種目があった場合。  
 ただし、0点は得点として認める。（棄権としない。）
- ③ 団体、個人ともに大会の公式練習、および競技中にケガ等をし競技の続行ができなくなり、更に監督から申請があった場合は、審判長の判断により、その後の種目の演技を実施や挙手を行わずに0点扱いにすることができる（緊急の場合は、口頭の受付も認める）。

## (7) 団体選手権に出場する選手の交代について

- ① 団体選手権に限り、申込書に記載された補欠選手と交代することができる。申告は所定の用紙に必要事項を記入し、監督会議開始までに監督会議の受付に提出すること。ただし、2日目の競技に参加する団体については、1日目の競技終了後に行われる公式練習終了後（本会場練習）に大会本部が定めた時間までとする。

## (8) 参加制限

地区種別	北海道	東北	関東	北信越	東海	近畿	中国	四国	九州	令和元年度優勝ブロック	開催地	合計
団体	1	2	3	1	2	2	1	1	2	—	1	16
個人	3	6	8	4	4	6	4	4	6	1	1	47

※ チーム参加者（正選手及び補欠選手）と個人は兼ねることはできない。

※ 体操競技における開催地とは、大会を開催する郡市をさし、開催地に部がない場合は開催する都道府県から開催地枠を選出し出場することができる。

## (9) 競技会場に入ることのできる人数（※練習および競技）

		チームリーダーを兼ねる監督	正選手	補欠選手	監督 <small>チームリーダーを除く監督</small>	コーチ or テクニカル ・アドバイザー	合計
自由演技	団体	1	4	2	チームリーダーと兼ねる	(1)	8 以内
	個人	1	4以内	0	3以内	4以内	12 以内

## (10) 監督に関すること

- ① 監督は、原則として男女別学校ごととし、競技中および会場練習、公式練習中に競技フロア一、練習フロア一（アリーナ内）においての引率を行うこと。  
なお、競技中の引率だけでなく、大会前日まで、または当日における会場練習、公式練習前も監督が受付をし、練習中も競技フロア一、練習フロア一（アリーナ内）において引率を行うこと。監督の受付、引率がない場合は会場への入場、練習を認めない。  
ただし、本会場と練習会場で同時に引率を伴う場合、練習会場における引率はその限りではない。その場合、大会本部に対して事前に連絡すること、また、ブロック長にも連絡をすること。なお、受付は日ごと、会場ごとに毎回必ず行うこと。
- ② 監督は監督会議資料や内容を理解し、必ずコーチ、選手等に伝えること。  
 開催都道府県により、監督会議を動画視聴や文書にて行う場合もある。要項で確認すること。
- ③ 監督、選手、コーチ及びテクニカル・アドバイザーの変更は監督会議終了までとし、その後の変更は認めない。
- ④ 原則として大会運営、採点（得点）に関する抗議はできない。ただし、Dスコアは競技に支障がない程度でD1に質問できる。時間がない場合は、競技終了10分後まで書面で審判長が受け付ける。（質問する際に監督と一緒にコーチが来ることは認められる）
- ⑤ チームリーダーは、監督があたることとする。ただし、個人組では原則としてプログラムの一番上になった選手の監督とする。
- ※個人の組は関係監督相互の協議により、そのうち1名があたっても良い。男女とも監督会議の際に各組の監督で打合せを行い、変更がある場合は本部に報告すること。
- ⑥ 個人組でチームリーダーにならなかった監督は、選手の種目ごとの練習及び演技にあたって選手席に入場することができる
- ⑦ 同一校の男子と女子の団体・個人などが同一時間帯に競技する時は、登録されているコーチまたはテクニカル・アドバイザーはアリーナ内で移動することができる。
- ⑧ 監督の服装は、全国大会、および空調設備があり空調を入れて大会を行う場合、長いズボン（ジャージ）とし、ハーフパンツなどは認められない。ただし、各ブロック、都道府県、郡市地区大会において、空調設備がない、または空調を入れることが不可の大会の場合、大会の主催者、または中体連体操専門部の決定に従うこと。なお、どちらの場合もサンダル、裸足等は不可とする。

## (11) コーチ（外部指導者）及びテクニカル・アドバイザー（中学校の教職員で当該校以外の他の中学校の補助・指導を行う指導者）に関すること

- ① 学校長が認め、所定の用紙にて届け出をした者1名とする。  
 ※ただし、当該校以外の中学校教職員は他校のコーチ（外部指導者）にはなれない。  
 中学校教員で当該校以外の他の中学校の補助・指導をする場合は、テクニカル・アドバイザー（中学校の教職員で当該校以外の他の中学校の補助・指導を行う指導者）の手続きをしなくてはならない。  
 1校にコーチとテクニカル・アドバイザーの両方がつくことは認められない。どちらか1名のみでの登録とする。
- ② 活動は、本会場および練習会場（練習および競技中）での指導・補助のみとする。また、生徒の安全確保の観点からバッグなどを身につけたままで補助等を行わないこと。  
 ※競技中、練習中の引率は監督のみであり、コーチまたはテクニカル・アドバイザーが引率することはできない。
- ③ 大会運営・採点（得点）へのDスコアへの質問、抗議等はない。
- ④ 監督会議には参加できない（テクニカル・アドバイザーとして登録された教職員で、当該校が出場する場合を除く）。

- ⑤ IDカードは各自が携帯し、いつでも提示できるようにすること。なお、IDカードの着用が認められるのは、校長より申請があった者のみであり、他人へ貸し出しなどはできない。
- ⑥ 上記の①～⑤に抵触するような違反があった場合、コーチ、およびテクニカル・アドバイザーの申請を取り消し、以後コーチ、およびテクニカル・アドバイザーとしての活動を認めないこともある。
- ⑦ 大会運営、および、中体連体操競技部、審判等の指示に従わない場合、または、中体連の大会として不適切な行動、言動があった場合はイエローカード（当該校の校長、監督、コーチへの注意）、レッドカード（大会会場からの退場）とする（該当する大会中のみ適用）  
※実行委員会、日本中体連体操競技部、審判長によって決定される。

## (12) 女子ゆか伴奏音楽に関すること

- ① 女子ゆかの音楽伴奏のために、団体では補欠選手の内1名が、個人では当該校の生徒1名を音楽伴奏係としてもよい。（個人の音楽伴奏係は、ゆかの練習及び演技の時に音楽操作区域のみ会場への入場を認める。）
- ② 女子ゆかの伴奏音楽は、CDやポータブル音楽プレイヤーを用いることができる。練習会場、および競技会場には伴奏用音楽機器を設置する。  
※ただし、開催地によっては「CDのみ」「ポータブル音楽プレイヤー（iPod ウォークマン USB など）も可能」などの指定がある。大会要項で必ず確認すること。

## (13) 審判に関すること

- ① 全国大会においては審判員の服装は次の通りとする。  
「空調を使用している場合は正規の服装とする（ネクタイ着用）、大会実行委員会からポロシャツ等の支給があった場合はそれを着用とする」
- ② ブロック大会、都道府県大会、都市地区大会においては審判員の服装は次の通りとする。  
「空調を使用している場合は正規の服装とする（ネクタイ着用）、大会実行委員会からポロシャツ等の支給があった場合はそれを着用とする。空調設備がない会場の場合はクールビズでの審判を可とする。ただし、クールビズの服装や着こなしは中体連の大会にふさわしい服装、着こなしとする」
- ③ 審判配置  
全国大会における審判の配置は次の通りとする。ただし、開催ブロック、開催都道府県の実情により配置の入れ替え等を行うことができる。

男子 審判長 日本体操協会

	ゆか	あん馬	跳馬	鉄棒
D1/E1	日体協	日体協	日体協	日体協
D2/E2	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック
E3	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック
E4	開催 都道府県	開催 都道府県	開催 都道府県	開催 都道府県
男女とも線審、計時、補審は開催都道府県				

女子 審判長 日本体操協会

	跳馬	段違い	平均台	ゆか
D1/E1	日体協	日体協	日体協	日体協
D2	開催 都道府県	開催 都道府県	開催 都道府県	開催 都道府県
E2	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック
E3	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック	開催 ブロック
E4	開催 都道府県	開催 都道府県	開催 都道府県	開催 都道府県

※ 開催ブロックとは開催都道府県を除くブロック内の都道府県のこと。例外として東北・北海道ブロック開催の場合は、北海道ブロックを最大4名まで派遣とする。なお、各種目で都道府県が重複することがないように配慮すること。

※ 跳馬のE審判は線審も兼ねて減点し、ライン減点も含めたEスコアとする（線審を配置できる場合は、E審判は線審と兼ねない）。

(14) その他

- ① 採点間の練習は、競技会場により認めることもある。
- ② 公開採点はしない。決定点とDスコアの表示とする。
- ③ 出場校へ速報を配布する。
- ④ 器具の高さについて

\*遵守事項1（3）により、各大会は会場に準備されたもので競技を行うこととなっている。  
次の高さは参考であり、必ずこの高さで行わなければならないわけではない。

男子	あん馬：115～116cm（着地マット12cm）
	跳馬：125cm（着地マット18 or 20cm・追加着地マット使用可）
	鉄棒：275cm（着地マット18 or 20cm・追加着地マット使用可）
	*器具の高さはすべて床面よりの高さ
女子	段違い平行棒：高バー250cm：低バー170cm（着地マット20cm）
	：高バー245cm：低バー165cm（着地マット12cm）
	：棒間130～180cm（バーの内側～内側の間隔）
	平均台：125cm（着地マット20cm）
	120cm（着地マット12cm）
	跳馬：125cm（着地マット20cm）

鉄棒の着地マット、追加マットの厚さが異なる場合の目安

着地マット	追加マット	鉄棒の高さ	マット・鉄棒間
20cm	10cm	275cm	245cm
20cm	5cm	270cm	245cm
20cm	—	265cm	245cm
18cm	10cm	275cm	247cm
18cm	5cm	270cm	247cm
18cm	—	265cm	247cm

\*鉄棒とマット間245cmを基準にし、他のマット厚の場合は、主催者が高さを決定する。

⑤中体連の大会イメージアップについて

大会運営側は体操競技の普及をはかる一環としてイメージアップをはかる。方法は大会運営側が創意工夫すること。競技中にBGMをかける。種目間の移動、公式練習等でBGMをかけるなどがそれにあたる。なお、BGMをかける場合は、競技や進行の妨げにならない程度の音量とすること。

6. コロナ対応、災害時の対応について

- (1) 災害時の対応は、当該年度に日本中体連より提示される「災害時緊急対応要項基準・インフルエンザ等に関わる対応について」に準ずる。
- (2) 競技中の対応については日本中体連体操競技部が制定した「天災（地震・落雷等）がおきた場合の対応マニュアル」に準ずる。

※災害だけでなく、会場や移動方法の変更などにより日程等の変更などがありえる。確実にその連絡をするため、大会出場の監督・コーチ（テクニカル・アドバイザー）・選手は開催地より指定された宿泊施設に必ず宿泊すること。

- (3) コロナ対応について、開催都道府県実行委員会（または中体連）から提示された指示に従うこと